

no.	著者・インタビュー	肩書・所属等	見出し	キーワード	ポイント(分析)	内容	発言者の属性(1)	発言者の属性(2)	発言者・参考文献	出典 書誌情報
1	金井 壽宏	神戸大学大学院 経営学研究科教授	リーダーシップの学び方を学ぶ ・アージリスが大切にする学習とは	暗黙の原理, 実践家の持論,		「リーダーシップに限らず、スポーツのプレー、楽器の演奏など何事においても、なかなか上達せず堂々巡りを続けるひとは、そのような自分のあり方の暗黙の原理や過程に気づかないとだめだ。やみくもに実践かであり続け、(内省よりは)行為のひとつであることを気取っていると、活発なようでもその行為の連鎖は、同じことの繰り返しで足踏み状態に陥ってしまう。そのような悪循環に入ったまま行為を続けるよりは、意識的に立ち止まって自分が使用しているセオリー(=実践家の持論)をチェックする必要がある。」	大学教授	経営学者	金井 壽宏(本人)	『リーダーシップ入門』 日経文庫1053 45頁8 行目～13行目
2	金井 壽宏	神戸大学大学院 経営学研究科教授	リーダーシップの学び方を学ぶ ・使用中の理論としての持論	アクションのコツ, 対話,内省,実演, 言語化, 内省の実践家, (reflective practitioner)		「ながらくアージリス[Chris Argyris]の盟友であったシヨーン[Donald Schon]は自分のアクションのコツを対話、内省、実演を通じて、原理・原則として言語化できるようなひとことを、内省の実践家(reflective practitioner)と呼んだ。」	大学教授	経営学者	故 Donald Schon (Chris Argyrisの 盟友 MIT)	『リーダーシップ入門』 日経文庫1053 46頁8 行目～10行目
3	金井 壽宏	神戸大学大学院 経営学研究科教授	リーダーシップの学び方を学ぶ ・使用中の理論としての持論	対話, 持論,		「アージリス[Chris Argyris]の主張を真に受けとめるなら、リーダーシップを身に付けたいと思うひとは、なによりもまず対話のなかから、自分なりのリーダーシップの持論(自分が実際に信じているし使っている理論セオリー)を探し出す必要がある。」	大学教授	経営学者	Chris Argyris (ハーバード大学 教授)	『リーダーシップ入門』 日経文庫1053 47頁4 行目～6行目
4	宇津木 麗華	ルネサステクノ ロソフトボール部 監督	「的を射た一言」	視野, 視点, 変える,		「私は練習に打ち込み過ぎて視野が狭くなるくらいがあったが、ある日、岡本[岡本綾子]さんは私を焼鳥屋に連れて行き「これを食べれば打てる」となじみのないスズメを注文。言われるまま食べると翌日、本塁打が出た。「ある一定のレベルに達したら、やみくもに練習してもだめ。視点や気分を変えることが大事なの」	プロゴルファー		岡本綾子 (プロゴルファー)	日本経済新聞 2009年6月3日(水)36 面 交遊抄
5	菊池 洋子	ピアニスト	「私の音 あなたに伝えたい」	伝える,		幼稚園の先生の演奏にあこがれ4歳でピアノを始めた。中一で師事した故・田中希代子の言葉に開眼する。「「伝わるか、伝わらないか、音楽にはその二つしかない」」 楽譜に書かれている通りに弾けばいいと考えていた少女は、音楽の深淵をかいま見た気がした。	ピアニスト		故・田中希代子 (ピアニスト)	朝日新聞 2009年6月2日(火)2面 芸能欄

no.	著者・インタビュー	肩書・所属等	見出し	キーワード	ポイント(分析)	内容	発言者の属性(1)	発言者の属性(2)	発言者・参考文献	出典 書誌情報
6	塩津 哲生	喜多流能楽師	「真の「気合」を求める」	後進の指導、物の見方、心のありよう、見聞を広め、		宗家(十五世宗家)の教えは基本の形と気合の大切さの二点。昨今、その気合を取り違えていたのではと気付いた。「力任せに見る人を引き寄せようとするのではなく、じっと立っているだけでも見る人の気を自分の方へ引き込むことが本来の喜愛ではないかと」(中略) 「長男の圭介(24)はじめ後進の指導をしながら「これで良かったかなと感じる」。「これまでの人生のあり方を考えた時、すべての面で狭すぎたと思う。ただただ扇を持って動いているだけでは物の見方、心のありようは培われない。遅ればせながら見聞を広め己の芸を見つめ直していきたい」	喜多流能楽師		塩津 哲生(本人)	日本経済新聞 2009年5月24日(日)25面 語る
7	中村 絃子	ピアニスト	「努力積み重ねた50年」 「中村絃子、華やかさの陰に」 「「奇跡」の瞬間求め」	鍛えてくださった、芸術を守り、育てたいと願う動き、先行き悲観はしない、確信、		「色々な浮き沈みもあった中、私を一貫して支え、鍛えてくださったのは日本の聴衆だった」との思いが強い。 例えば静岡県浜松市。「昔は客席の雰囲気も散漫。駅には興行を牛耳る若い関係者が出迎えに来た」という街で中村は96年、世界の若手を対象にした浜松国際ピアノ・アカデミーを創設し音楽監督に就いた。現在は浜松国際ピアノコンクール審査委員長も兼ねる。「今では世界一級のピアノの弾き手が育った」という。「どんなに経済が厳しくても、芸術を守り、育てたいと願う動きが消えたわけではなく、先行き悲観はしない」との確信もここで得た。」	ピアニスト		中村 絃子(本人)	日本経済新聞 2009年6月14日(日)25面 アート探究
8	今森光彦	写真家	NHK総合テレビ 生活ほっとモーニング この人にトキメキっ！		ある現象に対する認識と解釈 周りの草がなくなり日照時間が増えたから咲くのでは、という科学的な理解とは違う視点から物事を認識する	彼岸花の球根には意識がある(認識がある)・・・ 畑に咲く彼岸花は人間が周りの草を刈り終わってから、ここぞとばかりに咲く。これは、彼岸花の球根が「人間が今、草を刈っている。今一緒に刈られてしまわないように花を咲かせるのを待って、人間が去ってから咲こう」と意識しているのではないかと・・・	写真家		今森光彦(本人)	2009年6月18日(金) NHK総合テレビ 生活ほっとモーニング この人にトキメキっ！

no.	著者・インタビュー	肩書・所属等	見出し	キーワード	ポイント(分析)	内容	発言者の属性(1)	発言者の属性(2)	発言者・参考文献	出典 書誌情報
9	茨城大学人文学部 准教授		児童の判断力を鍛える薩摩藩の教育方法「詮議」	薩摩藩、 郷中教育、 詮議、 判断力、 対処法、 訓練、		「おそらく柳田の念頭には薩摩藩の郷中教育があった。薩摩には「詮議」として児童の判断力を鍛える教育方法があった。たとえば「殿様の用事で急ぐ場合、早駕籠でも間に合わぬときはどうするか」と子どもに問い、答えさせる。ふだんから、仮定の質問に答え、対処法を考える訓練をしていた。これにより、いざという時の処置判断を誤らせない。西郷隆盛も大久保利通もこの教育で育った。」	茨城大学 准教授	歴史学者	柳田国男 民俗学者	朝日新聞 2009年7月25日(土)b3
10	興福寺貫首 多川 俊映	龍谷大学客員教授	あらゆる人間性の定義は説明できないが、そこに至る道筋は説明可能である	菜根譚、 徳、 仏教、 因分可説、 果分不可説、 覚、 人間性、		「人生の知恵が満載の「菜根譚」も同じで、「人の小過を責めず、人の陰私を発かず、人の旧悪を念わず。三者、以て徳を養うべし」と説くだけだ。つまり、そうした日常の生活態度を心がければ、いわゆる徳が育まれると指摘することどまっている。 こういうのを仏教では、「因分可説・果分不可説」という。徳を養う心構え(因分。原因の分際)は可説で、一方、養われた徳そのもの(果分。結果の分際)は不可説なのだ。 仏教の最終目標は「覚」で、そういう覚への道筋は説明可能だが、その結果の覚そのものはコトバを超えたもの。もはや説明できないというのだ。人間性にかかわるものはみな、とうやらこういう構図になっているらしい。」	大学客員教授	法相宗僧侶 唯識研究者		日本経済新聞 2009年7月27日(月)
11	興福寺貫首 多川 俊映	龍谷大学客員教授	覚は不可説なので仏教はその方法と道筋を説く	覚、 不可説の世界、 方法と道筋、		「人間のこの本質的な愚迷、そして、自己中心性と視野狭窄は、おそろしく堅固なのだ。覚とは、こうしたむさぼり・いかり・おろかさ徹底排除した境地といってよい。が、そこは不可説の世界なのだ。覚を求める仏教がもつばら、むさぼり・いかり・おろかさの徹底排除の方法と道筋を説いて止まないのも、それでわかる。」	大学客員教授	法相宗僧侶 唯識研究者		日本経済新聞 2009年7月27日(月)
12	クリスチャン・ツィメルマン	ピアニスト	人々励ますのが使命	感情をより多くの 人々に伝え、 励ますため、 職能のすべて、 社会的責任、		加齢とともに時間の貴重さを知り「感情をより多くの人々に伝え、日常と異なる時空の休息を与え、「あなたは独りぼちではない」と励ますため職能のすべてをささげる社会的責任」を強く意識するようになった。	ピアニスト			日本経済新聞 2008年11月2日(日)25面
13	高橋 正実	デザイナー	拓くひと 半歩先へ モノも社会もイメージ次第	そんな〇〇を目指した、		スガキコンシステムズ(名古屋市)が創業60周年を記念して1978年に開発した先代商品の刷新を依頼した。「めんとスープがよく絡み、はしよりもおいしく食べられる。大人も子供の使いやすい。そんな食器を目指した」。	デザイナー		高橋 正実(本人)	日本経済新聞 2009年9月30日(水)夕刊1面

no.	著者・インタビュー	肩書・所属等	見出し	キーワード	ポイント(分析)	内容	発言者の属性(1)	発言者の属性(2)	発言者・参考文献	出典 書誌情報
14	高橋 正実	デザイナー	拓く ひと 半歩先へ モノも社会もイメージ次第	相手の事を最大限考える思いやりの精神、点から線へ。線から面へ、		江戸の下町、東京都墨田区で生まれ育った。人形職人の祖父、ガラス・建材職人の父など職人気質の家族と多くの従業員に囲まれて育った。「人様に迷惑をかけるな」。下町では決まり文句の親の教えは、相手のことを最大限考える思いやりの精神をはぐくんだ。「点から線へ。線から面へ」が発想の根幹。使う人のことを考え作品をゼロからイメージすれば、おのずと誰もが使いやすいデザインにつながっていく。	デザイナー		高橋 正実(本人)	日本経済新聞 2009年9月30日(水)夕刊1面
15	高橋 正実	デザイナー	拓く ひと 半歩先へ モノも社会もイメージ次第	様々な立場と角度から考え、デザインの色を信じる心		「様々な立場と角度から考え、社会の矛盾や問題を解決する」。デザインの色を信じる心は揺らがない。	デザイナー		高橋 正実(本人)	日本経済新聞 2009年9月30日(水)夕刊1面
16	オノ・ヨーコ	前衛芸術家・社会活動家	潜む神性「直感」で表現	アーティスト、特別な人、神性、不思議な大きな力、問題解決		アーティストというのは、特別な人のことだけではなく、自分の中に潜んでいる神性を認識して信じていけることができれば全ての人アーティストになれる。人間一人ひとりが不思議な力を持っている。世界を動かすのは1人の政治家よりも庶民。自分たちで問題を解決できる。	前衛芸術家	社会活動家	オノ・ヨーコ(本人)	日本経済新聞 2009年10月7日(水)夕刊16面
17	野村 美明	大阪大学大学院 国際公共政策研究科 高等司法研究科 併任教授	ARTとしてのリーダーシップ 一対話による実践知の言語化	アート、実践知、言語化、音楽家、		音楽では体を使って問題に気付かせる方法をとる。リーダーは他の演奏者が賛同しているときとそうでないときの雰囲気を感じ取り、その雰囲気に応じて自分が手本になって気付きを促す。琴の技法は元来口伝によって伝えられてきた。伝統的には師匠と弟子が一緒に生活して息づかいを身につけるといような教育方法がとられてきた。重要なことはまず「違いに気付く」ということであり、見出された「違い」を組み合わせていくことから創造が生じる。	大学教授	法学者	野村美明(本人) 西陽子(箏曲家)	ARTとしてのリーダーシップ 一対話による実践知の言語化 国際公共政策研究科 第14号第1号 2009年9月
18	佐野 玉緒	銀閣寺花方	相国寺・金閣・銀閣名宝展	我欲を抑え、花に従う		「花はただの素材ではない。命があり、個性がある。自分がこうしようというのではなく、花の姿が美しいところで花瓶にさす。我欲を抑え、花に従う」	銀閣寺花方			日本経済新聞 2008年11月2日(日)31面
19	小林 研一郎	指揮者 東京音楽大学客員教授	トップランナー 思いやりがみんなの力を一つにする	僕に与えられた使命		「オーケストラとは、神が人類に与えてくれた最高のもの。そして人間に与えてくれた大きな喜びと試練ではないでしょうか。(中略)最高の才能の方々が、自分の才能を何のてらいもなく十分に発揮できる環境を作ることが、まず僕に与えられた使命です」	指揮者	大学客員教授	九響首席客演	月刊WEDGE 2007年12月号 120-121頁
20	小林 研一郎	指揮者 東京音楽大学客員教授	トップランナー 思いやりがみんなの力を一つにする	精神的なつながり		「そのためには、丁寧な言葉遣いと謙虚な身のこなしとか、表面にあらわれるもののみは留まらず、むしろ本質は、相手に自分の真剣さを伝えたり、相手のプライドがどこにあるのかを知ったりすることで、精神的なつながりを築くこと、それがとても重要です。」	指揮者	大学客員教授	九響首席客演	月刊WEDGE 2007年12月号 120-121頁

no.	著者・インタビュー	肩書・所属等	見出し	キーワード	ポイント(分析)	内容	発言者の属性(1)	発言者の属性(2)	発言者・参考文献	出典 書誌情報
21	小林 研一郎	指揮者 東京音楽大学客員教授	トップランナー 思いやりがみんなの力を一つにする	相手のことをいつも思いやっている		「相手のことをいつも思いやっている、それがだんだん広がってくるのです。集団として心が育つのです。すると、もっともって、その人のいいところを見えてきて、それがまた隣の人へ、さらに隣へと伝わり、それがやがて大きなエネルギーとなり、`音`になるのです	指揮者	大学客員教授	九響首席客演	月刊WEDGE 2007年12月号 120-121頁
22	尼子 哲男	横浜国立大学経営学部助教授 (1992当時)	日本人マネージャー ー国際企業をのぼす7つの課題 第七章 弱点を克服するための7つの対策	日本人マネージャーの平均的な弱点		日本人マネージャーには次のような弱点がある。 1 他の業務との関連を説明しない。 2 仕事のコツを教えない。 3 段取りにむだがある。 4 期限を明確にしない。 5 信賞必罰でない。 6 意思決定が遅い。 7 日本本社に対して腰が弱い。	大学助教授	経営学者		日本人マネージャーー国際企業をのぼす7つの課題 222頁
23	上原 ひろみ	ジャズピアニスト	フロントランナー「毎日、その瞬間にしかない音を作りたい」	エネルギーがぶつかり合い、高揚し合って		一同じ曲を演奏しても、講演ごとに少し違って聞こえます。 毎日変わりたいです。いつも、その瞬間にしかない音を求めているから。引いているのは私一人でも、その空間で、私とお客さんのエネルギーがぶつかり合い、高揚し合っていくものがある。お客さんたちと一緒に作っていく感覚ですね。	音楽家	ジャズピアニスト		朝日新聞 2010年1月30日(土) be on Saturday b3面 フロントランナー
24	上原 ひろみ	ジャズピアニスト	フロントランナー「毎日、その瞬間にしかない音を作りたい」			一目標が高いのですね。 山は、そびえ立っていますよ。ピアノを、もっと自由自在に操り、ピアノを通してまだ見ていないもの、見えそうなものを、常につかんでいきたい。たぶん登山家と一緒にです。その山を登り切れば、いい景色が見られる。それを見たら見たで、もっとよい景色が見たくなるのです。	音楽家	ジャズピアニスト		朝日新聞 2010年1月30日(土) be on Saturday b3面 フロントランナー
25	鈴木 敏夫	株式会社スタジオジブリ代表取締役プロデューサー	Focus on people	自分のこと 他人のこと 勧善懲悪		「いろんな人が集まって一つのを成功させる最大の秘訣は、自分の立場を忘れることだと思っているんです(中略)“自分のことを考えている奴が悪いヤツ”なんですよ。考えてみると昔の勧善懲悪ってそうだった。」	編集者	映画プロデューサー	鈴木 敏夫(本人)	JAL Skyward 2009年3月号114-115頁
26	アルペナ・ダナイローヴァ	ウィーン国立歌劇場管弦楽団コンサートミストレス	文化 ウィーン・フィルに新風	音による対話		演奏中は音で対話 こうしていくつかのオーケストラを経験したが、ウィーン・フィルは特別だ。演奏中仲間が何をしたいかすぐ分かる。音による対話が成り立つのだ。	ウィーン国立歌劇場管弦楽団コンサートミストレス		アルペナ・ダナイローヴァ	日本経済新聞 2010年6月22日(火) 文化 40面
27	野口 美恵	フィギュアスケート選手 一般人向け国際大会・銅メダリスト	文化 銀版に大人の魅力輝いて			昨年は最後の仕上げに「生涯スポーツとしてのスケートに興味がある」とみどりさんまで来てくれた。 「何をやっているか分かるように大胆にやりなさい。私が小さく見えないのは、動きが大きくてクリアだからよ。」	フィギュアスケート選手		伊藤みどり	日本経済新聞 2010年8月2日(月) 文化 36面

no.	著者・インタビュー	肩書・所属等	見出し	キーワード	ポイント(分析)	内容	発言者の属性(1)	発言者の属性(2)	発言者・参考文献	出典 書誌情報
28	山田 洋次	映画監督	コミュニケーション、言葉で教える時代 若者の能力引き出す場	力を引き出す場		今の若者はコミュニケーション能力が低いという。でも僕の実感では、引き出す機会に恵まれていないだけで。実際、撮影現場で学生はみるみる成長した。力を引き出す場を与えることが必要だ。	映画監督		山田洋次(本人)	日本経済新聞 2010年9月15日(水) 夕刊文化 18面
29	細川 護熙	歴代首相	歴代首相に聞く 政権③	リーダーシップの 覚悟と人材集め		「要するに政権は、何かが起きれば対応するのではなく、明確な歴史認識とそれに基づく具体的な使命感をもつことが必要だ。そのためには、煎(せん)じつめればリーダーの覚悟と人材集めが何より大切だと思う」	歴代首相		細川 護熙(本人)	日本経済新聞 2010年10月25日(月) 2面
30	森 喜朗	歴代首相	歴代首相に聞く 政権⑤			あの人は何か仕掛けるから嫌われるが、もっと高い立場で二大政党を目指さないといけない。青木(幹雄元自民党参院議員会長)さんは欲がないからドンになれる。	歴代首相		森 喜朗(本人)	日本経済新聞 2010年10月27日(水) 2面
31	清水 良典	文芸評論家	夢を見るために毎朝僕は目覚めるのです 村上春樹著 人気作家の気さくな肉声と裏話			しかし共通して、相手によって胸襟の開き加減がはっきり区別できる点が面白い。音楽家のセッションにも似て、波長の合った相手とは、気さくな肉声や驚くような裏話も飛び出してくるのだ。	文芸評論家			日本経済新聞 2010年10月31日(日) 20面
32	朝香 聖一	日本精工株式会社 社会長	即断の関西流商売学ぶ	・即断即決 ・関西流商売 ・権限の拡大		関西電機業界を担当した朝香さんは、関東との商習慣の違いを味わった。たとえば「もうちょっと安うならんか」と言われたとき、関東風に「社に持ち帰って検討します」と答えたのではアウト。「ここまで堪忍してください」と即断即決しないと相手にしてもらえません。もちろん勝手に値引きして帰ってくれば、社内では「安請け合いするな」と怒られますが、社内で嫌な顔なら、仕事を取ってきて怒られた方がマシ。営業マンの仕事とはそういうものです。	経営者		朝香 聖一(本人)	日本経済新聞 2011年3月7日(月) 13面
33	安藤 忠雄	建築家	私の履歴書-独学でつかんだ天職 夢と現実 落差縮める調整役	・おもしろい ・まかせせる勇氣		そんな私が今日まで生きてこられたのは、学歴もなく社会的な実績もない若者に、ただ「人間として面白いから」という理由で仕事を任せてくれた古き良き「勇氣ある大阪人」がいたからだ。あの人たちのおかげで、私は仕事をしながら建築を学ぶことができた。	建築家		安藤 忠雄(本人)	日本経済新聞 2011年3月1日(火) 40面
34	内館 牧子	脚本家	人事異動の理不尽	・決断力 ・包容力 ・責任感 ・人望 ・学歴 ・自己愛 ・逃げ足 ・おもねり		先日、ある企業の男女4人と会った。4人は開口一番、不快気と言った。「Aさんが××(トップクラスの役職名)になったんですよ」私と連れは驚愕した。私たちは昔、Aさんとあるプロジェクトで関わったことがあるのだが、決断力なし、包容力なし、責任感なし、人望なし。あるのは国立大出身の学歴と自己愛と、逃げ足の速さと上へのおもねりくらいだろう。	脚本家		内館 牧子	日本経済新聞 2011年6月4日(土) 夕刊 1面

no.	著者・インタビュー	肩書・所属等	見出し	キーワード	ポイント(分析)	内容	発言者の属性(1)	発言者の属性(2)	発言者・参考文献	出典 書誌情報
35	橋本 武	国文学者 元国語教師 元灘高等学校教頭	98歳 変わらぬ授業	・自ら考え、体験する		目指したのは「自ら考え、体験する授業」。作中に出てくる駄菓子を食べさせ、たこ揚げやカルタ取りを体験させた。	国文学者 元国語教師 元灘高等学校教頭		橋本 武志	朝日新聞 2011年6月18日(土) 夕刊 8面
36	レベッカ・ソルニツト	ノンフィクション作家	大惨事でパニックするエリートと機能しない政府―「災害ユートピア」著者レベッカ・ソルニツト	・エリートパニック		われわれの社会制度は競争や利己主義に基づいて作られているので、競争心や利己心の強い人間が成功して、社会のトップに上り詰めるようになっている。彼らの目から見ると、世界全体が競争社会だ。だから、災害時には略奪のような事件が起こると恐れ、その恐怖に駆られた過剰反応からパニックを起こす。	ノンフィクション作家		レベッカ・ソルニツト	DIAMOND online World Voice 【第64回】 2011年6月23日
37	レベッカ・ソルニツト	ノンフィクション作家	どん底で助け合う普通の人々と機能する市民社会100年の災害史が示す人間コミュニティの真実とは―「災害ユートピア」著者レベッカ・ソルニツト	・市民社会 ・コミュニティ		災害は、文字通り人々を揺り起こすものだと思う。積極的に政治に参加するようになったり、利他的な活動にもっと従事するようになったりと、人生が根本的に変わってしまった人は多い。これは命を脅かす病気にかかった人の状態にも似ている。時間を無駄にせず、深い信念のために生きようと決心するのだ。 実際にどの程度か計測するのは難しいが、多くの人は元の仕事場に戻っても、市民社会やコミュニティを以前より大切にようになる。人生における優先順位や自分とは何者かという感覚が変わるのだ。そうした意識を保ち続けるには鍛錬が必要だということだ。ものへの無執着や他への慈愛といったことは、積極的な訓練があつてこそ持続できるものだ。革命は一時的に開放性や可能性、団結をつくり出す。災害も同じだ。だが、革命や災害の後、良くなる社会もあれば、悪くなる社会もある。要は、可能性の窓が開けられ、何かを手渡された。さて、ここからどうするか、という問題なのだ。大きな事故は一つの要因では起こらない。明石市、警察、警備会社の知識不足が重なったことがこうした事態を招いたと言える。各者がいかに主体的に警備計画に関わり、当日を迎えるかが重要だ。安全が確保できるかどうかは、事前の計画で9割が決まる。	ノンフィクション作家		レベッカ・ソルニツト	DIAMOND online World Voice 【第64回】 2011年6月23日
38	木下富雄	京都大学名誉教授	主体的な計画 極めて重要だ	・事前の計画		ただ、大きな事故は一つの要因では起こらない。明石市、警察、警備会社の知識不足が重なったことがこうした事態を招いたと言える。各者がいかに主体的に警備計画に関わり、当日を迎えるかが重要だ。安全が確保できるかどうかは、事前の計画で9割が決まる。	京都大学名誉教授	社会心理学	木下富雄	朝日新聞 2011年7月20日(水) 社会 37面

no.	著者・インタビュー	肩書・所属等	見出し	キーワード	ポイント(分析)	内容	発言者の属性(1)	発言者の属性(2)	発言者・参考文献	出典 書誌情報
39	海堂 尊	作家	外科医 須磨久善	・心臓外科医 ・本物		<p>「外科手術の教育のための肝は何でしょうか」(中略)「イメージーション、でしょうね。(中略)その次は、段取りのつけ方、ですね。」[P190～P191]</p> <p>超一流は、その根幹にクリエイティブ・マインドを抱えている。そういう人材を育てるにはどうすればいいのか。(中略)「本物を見るのが一番いいでしょう」[P196]</p> <p>本物かどうか知ることが一番大切なのです、(中略)「自分のところが引き込まれたら、自分にとっての本物です。」[P198]</p> <p>「子どもの感性ってすごいものです。あつと言う間に本質を見抜いてしまうんです(中略)今の時代は、子どもがおかしいのではなく、子どもに対する物事の伝え方がおかしくなっているだけなんです」[P204～P205]</p>	外科医			<p>講談社文庫『外科医 須磨久善』 2011年7月15日第1刷 発行 ISBN978-4-06-276976-1</p>